

HAMP Workshop06

HAMP Workshop06は美術作家柴川敏之を招いての「龍の道」プロジェクト、今までの帆布展参加作家の作品によって構成される企画展「尾道帆布展その時と現在」、およびワークショップ「街にもうひとり探す」の3つのプログラムを中心に開催しました。



左 8/2 千光道にて
右 8/20 尾道市商店街にて

「龍の道」プロジェクト ～2000年後の龍の行方～ 柴川敏之 ワークショップ

ワークショップ 8月4日～7日 千光寺道
展示 8月13日～30日 商店街アーケード内

今回の招待作家柴川敏之は「2000年後から見た現代」をテーマに制作を続けてきました。芦田川（福山市）で発掘された草戸千軒遺跡の出土品と自身の作品「現代の化石」を混在させた広島県立歴史博物館における試み「21世紀の冒険ミュージアム」が代表的な展覧会です。これは博物館と美術館の境界を崩し、博物館の展示物に対する視線を活性化させる実験的試みとして非常に注目を集めました。

柴川氏は以前より数多く尾道を訪れており、とりわけ千光寺界隈の独自の景観に注目していました。そこから構想されたのが尾道の地勢を活かした大規模なプロジェクト「龍の道」です。これは千光寺山頂へと登る道の流れを龍に見立てて行うワークショップで、商店街から千光寺山頂へと至る登山道の道のりを拓本技法で幅90cmの帆布に刷りとっていくものです。このプロジェクトは2006年夏に多くの協賛、協力を得て実現する事ができました。

真夏の暑い日射しの中、8月4日より3日間をかけて参加者やアシスタントの手によって国道2号線から山頂展望台ま

でおおよそ800mの道のりを刷りとっていきました。

途中、道中の階段や石畳の表情、生えている植物や、ゴミ、手すり、参加者の私物、時には参加者自身の姿も拓本に刷り取りながら全長800メートルの巨大拓本が完成していきました。

出来上がった巨大拓本は尾道市商店街の協力を得て商店街アーケード上部に設置。夕方以降から深夜にかけて行われる連日の設置作業は困難を極めました。8月13日には商店街入口よりセンター街の終わりまで龍の長い帯によって繋ぐ事ができました。龍は時折商店街アーケードの流れを攪乱するように、店舗に入り込んだり、建物に巻き付いたり蛇行しながら設置されました。場所の記憶を持った龍は風景を等倍で映し込んだ長いフィルムのようにも見え、商店街の道のりを歩きながら見上げると、2つの道の間にいるような不思議な感覚を喚起させていました。

ワークショップ参加者やスタッフにとって風景のスケールを身体感覚で捉え直す得難い機会となったことと思います。